

## 「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けに行なっている公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております! 掲載料は無料です。



- 9 SEP** **みやぎ県民大学「能と日本文化」(全5回)** **9月1日(土)~** 13:30▶16:00  
 講師 太田 直道 (宮城教育大学名誉教授) 無料 要申込  
 場所 宮城教育大学、せんだい演劇工房 10-BOX 別館 定員 60名  
 主催者 宮城県教育委員会・宮城教育大学 問合せ TEL 022-214-3521  
 URL http://renkei.miyakyo-u.ac.jp/suisin/koukai.html
- 特別企画展記念シンポジウム「富沢遺跡を考える—弥生時代の仙台—」** **9月1日(土)** 13:30▶16:30  
 無料 申込不要  
 場所 仙台市太白区中央市民センター 大会講堂 定員 100名(先着、中学生以上)  
 主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153  
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/
- 現代文学を探究するコース「佐伯一麦と読む現代の文学」(全3回)** **9月2日(日)~** 13:30▶15:00  
 講師 佐伯 一麦 (作家) 有料 要申込  
 場所 仙台文学館 講習室 定員 50名  
 主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020  
 URL http://www.sendai-lit.jp/
- みやぎ県民大学「高齢者の摂食嚥下障害リハビリテーション~安全に食べるために~」(全4回)** **9月8日(土)~** 13:30▶15:30  
 講師 実施機関 東北文化学園大学 無料 要申込  
 場所 東北文化学園大学 定員 50名  
 主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-233-3310  
 URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/
- 第25回いのちの科学フォーラム 市民公開講座「放射線とマスメディア~わからないことをどう伝えるか~」** **9月8日(土)** 14:00▶17:00  
 講師 中村 仁信 (大阪大学名誉教授) 他 無料 要申込  
 場所 宮城県歯科医師会館講堂 定員 300名(先着)  
 主催者 日本放射線影響学会第55回大会 他 問合せ TEL 022-717-8509  
 URL http://www.houshasen-mass.jp
- 空気に関わる環境と防災 (全5回)** **9月12日(水)~** 18:00▶19:30  
 講師 嶺岸 茂樹 (東北学院大学工学部 教授) 他 無料 要申込  
 場所 東北学院大学多賀城キャンパス 1号館3階第2会議室 定員 50名(先着)  
 主催者 東北学院大学工学総合研究所 他 問合せ TEL 022-368-1337
- 東北大学リベラルアーツサロン第18回:「気になる」子どもと発達障害** **9月14日(金)** 18:00▶19:45  
 講師 本郷 一夫 (東北大学大学院教育学研究科教授) 無料 申込不要  
 場所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
 主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
 URL http://cafe.tohoku.ac.jp/
- 近代文学を読み解くコース「夏目漱石を読む」(全5回)** **9月16日(日)~** 13:30▶15:00  
 講師 小森 陽一 (東京大学教授) 有料 要申込  
 場所 仙台文学館 講習室 定員 80名  
 主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020  
 URL http://www.sendai-lit.jp/
- リカレント講座「生活機能を支えるリハビリテーション」(全6回)** **9月19日(水)~** 10:30▶12:00  
 講師 鈴木 堅二 (東北福祉大学健康科学部教授) 他 有料 要申込  
 場所 東北福祉大学 ステーションキャンパス3階研修室 定員 50名  
 主催者 東北福祉大学 問合せ TEL 022-380-1067  
 URL http://www.tfu.ac.jp/llc/
- 東北大学サイエンスカフェ 第84回:ことばが生まれる! ~神経生物学から起源を探る~** **9月28日(金)** 18:00▶19:45  
 講師 大隅 典子 (東北大学大学院医学系研究科教授) 無料 申込不要  
 場所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
 主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
 URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略

第18回

## 名著への旅



『古寺巡礼』  
 和辻哲郎 著  
 岩波文庫  
 (1979年3月16日 第1刷発行)

古寺・古美術の見学印象記である本書は、亀井勝一郎の『大和古寺風物誌』とともに、発表以来数多くの読者に愛されてきた。亀井の本は高校生時代に一度読んだが、これは初読である。著者がこの時奈良付近に遊んだのは大正7年、29歳になって間もなくの時期であったようだ。三分の一ほど読み進んだ時点でどうにももどかしさに堪え切れず、五月の連休、近隣の博物館に二日間通い、大判の美術全集と引き較べながら楽しんだ。それにしても、知識の深さと独自の想像の世界は賞嘆の域を超えている。とりわけ薬師寺東院堂聖観音についてのくだりは、自身「古典的傑作」としているだけに、若さと情熱に溢れ、日本語の美しさが匂い立つ名文である。上の全集解説子も「この一体があるために日本の彫刻は世界の彫刻に決して負けない」としていた。今回初めてその存在を知った仏像もあった。いつの日か本書を携え、思う存分大和の地を逍遙したいと思わずにはおかない一冊である。(隴)

### 「文字・活字文化の日」企画展

## 第8回 文字・活字とのふれあいDay

入場無料

開催のお知らせ

笹氣出版印刷株式会社では毎年「文字・活字文化の日」にちなみ、皆様に広く文字・活字や印刷のことにふれていただけるイベントを開催しております。今年も下記日程で開催しますので、ぜひ奮ってご参加ください。

日程: 2012年10月19日(金)・20日(土) 9:30~16:00

場所: 笹氣出版印刷株式会社内

QRコードからアクセス!



お問い合わせ  
 022-288-5555  
 sasaki@sasappa.co.jp

学びの庭におじゃまします

次号テーマ: 「東日本大震災」

2012年10月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先

FAX 022-288-5551  
 TEL 022-288-5555  
 (FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く)  
 ✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第17号/発行日2012年7月5日  
 企画・編集 笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」 只野裕裕 佐藤曜 川又進 遠藤洋子 菅野保広 伊藤秀平 齋藤麻実  
 編集部 菅野耕平 三上志穂 オフナーバー: 笹氣義幸 寺田征也(東北大学大学院)  
 協力 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本 株式会社テイクワン

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC 認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



FREE ¥0

♡ご自由にお持ち帰りください。



学術の世界と市民をつなぐ情報誌

# まなびのめ

学びの庭におじゃまします

ことばに学ぶ

方言を調べると日本語の歴史が見えてくる



東北大学大学院文学研究科 東北大学方言研究センター 教授  
 (日本語学、方言研究)

小林 隆 先生

日本語を教えると文化の違いが見えてくる



宮城学院女子大学 学芸学部 日本文学科 准教授  
 (日本語教育学)

澤邊 裕子 先生

〈行ってみよう!「学び」の場所へ〉

- これからの主な「学び」イベント39件掲載!
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅 『古寺巡礼』(和辻哲郎)
- 読者の声

図書カード懸賞付  
 クイズあります

季刊誌  
 第17号  
 2012.7



Web版は随時更新中!

まなびのめ | 検索

http://www.manabinome.com

発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な

## 「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合せ先へご確認ください。  
 有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細はWeb版に掲載しております。ぜひご覧ください。

- 定期開催** **トワイライトサロン「MA☆(マスター) 毎週土曜日 土佐誠の宇宙が身近になる話」** **7月13日(金)~9月17日(月)** 17:00▶17:45  
 講師 土佐 誠 (仙台市天文台長) 無料 申込不要  
 場所 仙台市天文台 オープンスペース 他  
 主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300  
 URL http://www.sendai-astro.jp/
- ミニ企画展 「山あいのムラの環境と暮らし」** **7月13日(金)~9月17日(月)** 9:00▶16:45  
 有料 申込不要  
 場所 仙台市縄文の森広場  
 主催者 仙台市縄文の森広場 問合せ TEL 022-307-5665  
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/
- 特別企画展 「発掘 富沢!!—30年のあゆみ—」** **7月13日(金)~9月17日(月)** 9:00▶16:45  
 有料 申込不要  
 場所 地底の森ミュージアム 企画展示室ほか  
 主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153  
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/
- 東北大学リベラルアーツサロン第17回:「7月13日(金) 神話と首狩の宗教民族学」** 18:00▶19:45  
 講師 山田 仁史 (東北大学大学院文学研究科准教授) 無料 申込不要  
 場所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
 主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
 URL http://cafe.tohoku.ac.jp/
- 第11回ウイルス学夏の学校 7月14日(土)~7月15日(日) みちのくウイルス塾** 13:00▶17:00  
 講師 西村 秀一 (仙台医療センター・ウイルスセンター長) 他 無料 申込不要  
 場所 仙台医療センター 管理棟3階大会講堂 (備考) 7/15は9:00▶12:00  
 主催者 仙台医療センター・ウイルスセンター 問合せ TEL 022-293-1173  
 URL http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/
- 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2012** **7月15日(日)** 9:00▶16:00  
 無料 申込不要  
 場所 東北大学川内北キャンパス 講義棟  
 主催者 特定非営利活動法人 natural science 問合せ TEL 022-721-2035  
 URL http://www.science-day.com/
- 国宝・大崎八幡宮「仙台・江戸学」第6期「仏像と肖像彫刻にみる仙台地域の歴史」** **7月19日(木)** 13:30▶15:00  
 講師 酒井 昌一郎 (仙台市博物館学芸室) 有料 要申込  
 場所 大崎八幡宮 祭儀棟 定員 100名  
 主催者 国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学 実行委員会 問合せ TEL 022-234-3606  
 URL http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/
- 企画展「戦争と庶民の暮らし」** **7月21日(土)~9月17日(月)** 9:00▶16:45  
 有料 申込不要  
 場所 仙台市歴史民俗資料館  
 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956  
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/
- 企画展 「郷土の画人・小林実回顧展」** **7月21日(土)~10月21日(日)** 9:30▶16:30  
 有料 申込不要  
 場所 七ヶ宿町水と歴史の館  
 主催者 七ヶ宿町水と歴史の館 問合せ TEL 0224-37-2739

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略

今回の「〇〇に学ぶ」シリーズは、「ことばに学ぶ」。「ことばを学ぶ」ことが、さまざまなことの「学び」につながっていくのでは、との予想が的中しました。まずは、方言研究の東北大学・小林隆先生のお話を耳を傾けてみましょう。

# 方言を調べると日本語の歴史が見えてくる

## お年寄りも方言を使わなくなっている

東日本大震災の後、地名を入れた「がんばっぺ〇〇」というスローガンが目立ちました。非常事態の中、「がんばっぺ」という方言が、被災者が一体感を持つためにも、支援者が応援の気持ちを表すためにも適切だと感じられたからではないでしょうか。心を支え、絆を結ぶという方言の現代的な役割が、再確認された事例だと言えると思います。

しかし大きく見れば、方言は消滅の危機にあります。今でもお年寄りは方言をよく使うし、よく知っているというイメージがあるかもしれませんが。しかし仙台で最近行われた調査では、およそ50年前の1960年代とは全く違った結果が出ました。当時と今の70歳代の人を比べると、仙台方言はかつての半分ほどしか使われなくなっています。雷を指す言葉で、いずれも雷様から転じた「ライサマ」「オレサマ」などがその典型です。今、方言は急速に滅びようとしているのです。

明治維新を経て近代的な統一国家が建設されたとき、東京の言葉をベースに作られた共通語の推進・普及が始まりました。各地の方言は否定され、方言撲滅運動さえ展開されます。共通語を標準語と言うことがありますが、「標準」という言葉そのものに、共通語には価値がある、逆に言えば方言には価値がないという意味が、すでに含まれているのです。



東北大学大学院文学研究科／東北大学方言研究センター 教授  
専攻＝日本語学、方言研究

## 小林 隆 先生

〈プロフィール〉(こばやし・たかし) 1957年新潟県生まれ。東北大学文学部卒業。東北大学大学院文学研究科博士課程退学。国立国語研究所研究員、東北大学助教授を経て、2004年より現職。博士(文学)。著書に「方言が明かす日本語の歴史」[シリーズ方言学1～4] (いずれも岩波書店) など。

方言に否定的な社会状況はその後も続きますが、1970年代、高度経済成長が終わったあたりで流れが変わります。人々が足元を見つめ、自分や自分の暮らしている地域のアイデンティティ、個性を求めるようになったのです。方言が「使うと落ち着く」「あたたかみがある」などと評価されるようになり、それまでは笑いの対象にしていたテレビでも、方言が肯定的に扱われ始めます。方言は大切な地域文化として保護され、小中学校の国語の教科書にも取り上げられるようになりました。しかしそれでも、メディアの発達をはじめとするさまざまな理由から、方言の衰退は続いています。

そして今方言は、「アクセサリ化」というもう一つの危機に直面しています。皆さんの中には、「今の若者はけっこう仲間どうしで方言を使っている」という方もいらっしゃるでしょう。実は今、若者を中心に、方言が一体感を演出するための道具として使われることが増えています。若者が親しい相手に送る電子メールに方言を交えたり、テレビで方言を話すタレントが人気だったりするのは、本来は生活に根ざした実用的な言葉である方言が、心理的な効果を狙って使うものになりつつあるからです。自然に話されていた方言が、意図的に使うものへと変質してしまうことは、やはり方言の危機なのです。

## 方言は歴史的な日本語の宝庫

「違和感がある」ことを示す「いずい」を、東北を代表する方言の一つだと思っている方も少なくないでしょう。しかし同様の言葉は、九州にもあるのです。これに限らず、本州から九州にかけての列島の北と南の端に、非常に良く似た方言が存在する例は数多くあります。

各地の方言を調べ、それを記号に置き換えて地図に記していく「方言地図」からは、実に興味深いことが分かります。たとえば「梅雨」のことを「ナガアメ」のように呼ぶのはほぼ東北地方と琉球列島だけで、他の地域にはありません。実は近畿地方を中心として、ほぼ同心円状に同じ言葉、似た言葉が分布している言葉が数多くあることが分かっています。『遠野物語』の著者としても知られる民俗学者の柳田國男は、カタツムリの呼び方を典型的な例として挙げました。これを「方言圏論」と言います。

かつて都のあった京都で生まれた新しい言葉は、人の口から口へと伝わって日本中に広がりました。従って近畿で使われている言葉がもっとも新しく、東北や九州の端には、もっとも古

い言葉が残っているという説明が成り立ちます。実は方言は、歴史的な日本語の宝庫でもあるのです。

「日本語の歴史」と聞いて多くの人が最初に思い浮かべるのは、学校で習った古文でしょう。『源氏物語』も『枕草子』も素晴らしい文化遺産ですが、書かれた当時でさえ、日本人が皆これらの文章のような言葉を使っていたわけではありません。むしろ京都の貴族階級というごく一部の人が読み書きしていた言葉と考えるべきで、話し言葉は別であり、社会階層や地域が変われば、使われる言葉も相当に違っていたはずなのです。

そうした言葉を文献から明らかにすることは困難です。しかし実は、方言研究から各時代に各地で実際に話されていた、日本語の姿に迫ることができるのです。たとえば馬を「駒」と呼ぶ例は、文献上では平安時代の和歌をはじめとする上品な表現に限られます。しかし方言研究と、古文の教科書には載らないようなマイナーな文献を徹底的に調べて突き合わせることで、庶民の間では「こま」と言えば雄馬だけを指し、雌馬は別の呼び方をしていたということが分かるのです。

先ほどの「方言圏論」も、現代の研究ではさらに深まっています。たとえば九州では古い言葉がそのままの意味と形で残りやすいのに対して、東北では使い道が大きく広がったり、思いがけない意味や形に転じたりする例がしばしば見られます。こうした言葉に対する態度の差が、地域の風土や個性と密接に関係していることは言うまでもありません。

## 方言を大切にすることで多様な価値を守る

日本語は時代とともに変わって行きますし、それを押しとどめることはできません。テレビのアナウンサーが話す共通語や、私たちが「伝統的な美しい日本語」だと思っている言葉も、歴史の中で変化を重ねてきたものなのです。

従って私は、「近年は日本語が乱れている」「若者の誤った言葉遣いが許せない」という意見には、簡単には同調できません。「ら」抜き言葉は広く定着しつつありますし、アルバイト店員のマニュアル言葉として問題にされる「コーヒーの方お持ちしました」という言い方にも、尊敬の対象を口にする際、意図的にあいまいな表現をする日本語の特質が表れていると言えます。

しかし日本語が変化することと、方言が失われてしまうことは別の問題です。共通語が正しい日本語で、方言は崩れた言葉だと考える人は、今も少なくありません。関西の方言と違って、

**懸賞** 図書カードを  
当てよう! **まなびのめクイズ** 正解者の中から抽選で3名様に  
図書カード1000円分をプレゼント

**Q.1 各地の方言を記号に置き換え記して作成する地図を何という?**

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要で、澤邊裕子先生の記事もご覧ください。

**応募方法** はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代させていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

**【応募締切】 2012年8月31日 当日消印有効**



左：支援者のための気仙沼方言入門パンフレット  
右：消えゆく日本語方言の記録調査ポストカード

東北の方言に劣等感を持つ人も多いでしょう。また方言は、あまりに身近で日常的であるために、人々の関心が低かったり、学問研究の対象と考えられにくかったりということもあって、今日の危機を招いたと言うこともできます。

そう言う私も、実は東北大学に入るまで方言が学問研究の対象になるとは思っていませんでした。地理学とどちらにしようか迷ったあげくに言語学を学ぼうと入った大学で、地理学と言語学とが重なり合う方言学に出会ったのです。言葉の分布を視覚的に表現できる「方言地図」の素晴らしさと面白さには、特に魅せられました。

昨年の夏、私たちの研究室では、気仙沼地方に入られるボランティアや医療・行政関係者のために、『支援者のための気仙沼方言入門』というパンフレットを作りました。「ネコ」が「一輪車」を、「サブキ」が「咳」を、「ワガンネ」が「駄目だ」を意味することや、シガストと発音されるため、地名の鹿折(ししおり)が「ススオリ」に聞こえるということなどを紹介し、被災者とのコミュニケーションに役立てていただいています。

方言が失われ、国じゅうが一つの言葉になってしまうと、言葉を使ってなされる「思考」もまた、均一化されてしまうに違いありません。地域それぞれに歴史があり、個性があり、多様な発想があることが価値だとするならば、その意味でも、方言はもっと大切にされるべきではないでしょうか。私たち研究者もまた、方言の良さ、価値を分かっていたために活動しなければならぬと考えています。

今自分たちが使っている言葉をあらためて意識することは、方言学に限らず、古典を含む国語学、言語学、あるいは歴史学などへとつながっています。皆さんもぜひ、方言と向き合うことから学びを広げ、深めてみてください。

(取材＝2012年5月25日／東北大学)

文学研究科法文学研究科合同研究棟 3階・国語学専攻研究室にて)

学びの庭に  
おじゃまします

「ことばに学ぶ」のお二人目は、日本語を母語としない人に「日本語を教える」という実践経験も豊富な、日本語教育学の宮城学院女子大学・澤邊裕子先生。普段あたりまえと思っている日本語・日本の魅力に気づくことができるかもしれませんよ。

# 日本語を教えると文化の違いが見えてくる

## 女性が多く活躍する日本語教師

テレビドラマにもなったコミックエッセイ『日本人の知らない日本語』をご存知ですか？日本で生活する外国人はかつてに比べて大きく増えましたが、そうした、日本語を母語としない方々に日本語を教える日本語教師の物語です。この本がヒットしたおかげで、日本語教育への関心が高まったことは素直にうれしいです。私は大学で、その日本語教師を養成する仕事をしています。

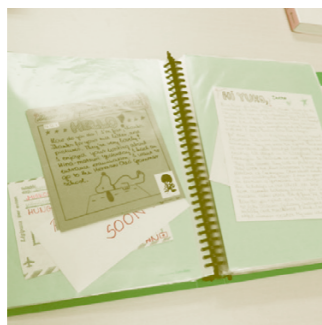
日本語教師には、女性が海外で活躍できる仕事としても注目が集まっているようです。本学では、日本語教員養成課程の1期生が、この春大学院から巣立って行きました。国内だけでなく、韓国の大学の日本語教師になったり、ロシアやベトナムで教えたりする予定の卒業生もいます。

私自身も大学で日本語教育を学び、大学院修了後、まず東京と仙台の日本語学校で教壇に立ちました。その後、北方領土の択捉島で幅広い年齢層のロシア人に日本語を教える機会を得て、ぜひ本格的に国外で仕事をしたいと思うようになったのです。幸いにも韓国で5年間、高校生や大学生に日本語を教えることができ、帰国後、本学で教師の養成にあたることになりました。現在も東北大学で、中国、ドイツ、フランス、台湾などから来た留学生に日本語を教えています。

最初は、中学生になって英語の授業が始まり、外国と外国語に興味を持ったことがきっかけでした。姉が海外文通していたことに影響されて自分も始めたのですが、同世代の外国人に英語で書いた文章が通じ、返信を受け取るうれしさと楽しさは格別でした。同時に5、6人と文通し、クラスの友達にも広めた思い出があります。ただ、書く方は英語の例文集を見たりして何とかかなりでしたが、受け取った手紙を読むのは大変でした。よく英語の先生に翻訳していただいたものです。



中学時代からの文通をまとめたファイル「私の宝ものです」



文通の相手は、アメリカやオーストラリアといった、英語を母語とする人々だけではありません。ハンガリーの子と文通したときは、お互いに母語ではない英語を使って、たどたどしいながらも分かりやすい手紙のやり取りを楽しみました。私はよく手紙に、日本語ではこう言いますとかこう書きますとか記したのですが、文通相手がそれをまねて日本語を書いてきてくれた時は感激しました。

こうした体験から、将来は国際的な仕事をしたいと思うようになります。日本語教師という仕事があることを知ったのは高校生の時で、ちょうど日本の大学に日本語教員の養成課程が設立され始めた時期でした。女性が多く活躍しているということにも励まされて、進路を決めたのです。

## 教えると見えてくる日本語の特質

日本の学校で日本語を教える「国語」と、「外国語としての日本語」を教える日本語教育はだいぶ違います。国内では、いろいろな国籍や母語の方をいかに教える場合がほとんどです。従って、最初から日本語を使って教えます。実物や絵や動作を示して「日本語で何と言うか」というところから始まり、少しずつ単語を覚えてもらって、日常会話や文法へと発展させて行くわけです。

これに対して国外では、初学者を対象とした場合、基本的にはその国の言葉を使って日本語を教えることが多いです。韓国をはじめとするアジア圏を中心に、世界中の学校で日本語が教えられていることは、日本では意外に知られていません。そうした学校では、日本の学校で日本人の先生が英語を教えているように、その国の先生が日本語を教えています。なお、日本語を日本語で教えることを「直接法」、媒介語を使って教えることを「間接法」と言います。

日本語を教える難しさ、日本語を学ぶ難しさは裏表の関係です。他の言語と違う日本語ならではの難しさとしてまず挙げられるのは、やはり敬語でしょう。たとえば韓国語にも敬意を表す表現はありますが、使う言葉は年齢の上下関係によってほぼ決まります。ところが日本語では、内部での上下関係に、内と外での使い分けが加わります。社内では尊敬語で話すべき上司を、社外では敬称を付けずに紹介したり、謙譲語を使って先方と話をしたりするのが正しいということになります。日本語を母語としない学習者は、こうした実際の運用で苦労しているようですし、教える側にとっても説明が難しい点です。

また日本語には、「おかげさまで」「わざわざ」「せっかく」など、相手を氣遣う言葉が多いという特徴もあります。私は、こうした相手への配慮が感じられる言葉には、日本語ならではの美しさがあると思います。しかし婉曲的な表現を使ったりする際には、互いに相手の言葉の背後にある考えを読み取り、暗黙のコミュニケーションを交わす必要があります。たとえば「考えておきます」のようなはっきりとしない返事は、実は否定の意味を表している、という場合です。「相手を傷つけないように」という気持ちから出たとしても、日本語を母語としない方々にとって、理解することは困難です。

このように、単語の本来の意味にかかわらず、どのような文脈で発せられたかによって伝えられる意味が異なってしまう例が、日本語には少なくありません。日本語は文脈依存度が高い「高コンテキスト（文脈）」な言語であるのに対して、英語やドイツ語は「低コンテキスト」な言語だと言うことができるでしょう。

## 日韓の高校生の交流を仲立ち

以上のように、日本語教育の面白さの一つは、あらためて日本語の特質、またその背後にある日本文化の特質に気づくことができる点にあります。日本語や日本文化を、日本語を母語としない方々の目で見直す面白さと言っても良いかもしれません。日本語を教えるためのテキストには、何色を「なんしょく」と読むときは色の数を聞いているが、「なにいろ」と読むときは色の種類を聞いている、といった説明があります。教えることで、普段は無意識に使っている日本語が、実はたいへん豊かで繊細な言葉であることに気づかされるわけです。

また、異なる言語を母語とする方々とのコミュニケーションで世界が広がることも、日本語教育の面白さです。韓国で若者に日本語を教えたときは、初対面でも「結婚していますか」などプライベートなことをどんどん聞いてくるので驚きました。韓国人は「互いに親近感を持つために根掘り葉掘り聞くのは当然だ」と思うようですが、授業では「日本人はいきなりだとそれを失礼だと感じますよ」と教えます。しかし私自身は、そんな韓国人の人懐っこいところが大好きになりました。

韓国の高校では英語に次ぐ第二外国語として日本語を学ぶ生徒がとて多く、「韓国人にとって、日本語は世界一易しい外国語だ」と言えそうです。日本の高校生にも韓国語を学んでほしいと思うようになりましたが、今は大学の系列の高校で、希望者に韓国語を教えています。実際にインターネットのテレビ

電話を通じて韓国の高校生と交流したりするうちに、互いの文化への理解を深めてくれているようです。

大学での指導では、毎年名古屋にある南山大学への研修旅行を行って、おもに欧米からの留学生と交流する機会をつくっています。留学生に「日本人には自分の意見がない」などと言われてショックを受けることもあるようですが、互いにコミュニケーションスタイルの違いを認め、歩み寄ることの大切さを学ぶ、貴重な機会になっています。

近年は日本語教育に興味を持つ方が増え、職業以外にも、ボランティアとして教えている方も多くいらっしゃいます。私は今、学校の休み期間などに石巻に足を運び、ボランティアの日本語教室に関わるなどの活動もしています。しかし普段日本語を使って生活していることと、日本語を教えることは別です。教える側の立場から、一方的な態度を取ることがないように気をつけなければなりません。特にアジアの国々と日本の間には、歴史上の問題があるという知識や配慮も必要です。

しかし、市民の皆さんが日本語教育について関心を持ち、日本語や日本文化を見直す楽しみを味わってくださるのはうれしいことですし、学びを通して人のつながりが広がることは楽しいことです。私自身も今は茶道を学んでいます。学ぶことで、去年よりも、昨日よりも前進していきたいと願っています。

(取材= 2012年5月17日/宮城学院女子大学 人文館3階・澤邊研究室にて)



宮城学院女子大学 学芸学部 日本文学科 准教授  
専攻=日本語教育学

## 澤邊 裕子 先生

《プロフィール》(さわべ・ゆうこ) 1974年宮城県生まれ。東京女子大学現代文化学部卒業。東京女子大学大学院現代文化研究所修了。修士(学術)。国内の日本語学校に勤務後、韓国で国際交流基金ソウル日本文化センター専任講師、ソウル大学言語教育院研究員として日本語教育にあたる。2007年より宮城学院女子大学講師。翌年より現職。韓国で日本語を学ぶ高校生と、日本で韓国語を学ぶ高校生を結ぶ交流学習の事例を集めたサイト「隣国のことばと文化を学ぼう～日韓交流学習事例集」(<http://www.jk-exchange.com>)を運営。

懸賞 図書カードを  
当てよう! まなびのめクイズ 正解者の中から抽選で3名様に  
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 日本語で日本語教育をする方法を何という?  
※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要で、小林隆先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、  
⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部まで応募ください。  
※当選の発表は発送をもって代させていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。 【応募締切】2012年8月31日 当日消印有効

Web版はより多くの情報を  
随時更新しています。

「まなびのめ」 検索

http://www.manabinome.com

7 JUL

中間技術とソーシャルキャピタルが導く社会（技術・経済・社会の相互作用）（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）**7月21日(土)**  
13:00▶16:30  
講師 谷口 尚司（東北大学） 無料 要申込

場 所 仙台市戦災復興記念館 4F 研修室 定員 50名

主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学 問合せ TEL 022-795-3925

URL http://www.gakuto-sendai.jp/

第7回東北大学病院市民公開講座「糖尿病対策のススメ」**7月22日(日)**  
13:00▶15:30  
講師 片桐 秀樹（東北大学大学院医学系研究科代謝疾患学分野教授）他 無料 要申込

場 所 仙台国際センター大ホール

主催者 東北大学病院 問合せ TEL 022-717-7131

URL http://www.hosp.tohoku.ac.jp/release/index.php?e=690

東北大学サイエンスカフェ 第82回:エンジョイDNA～よくわかる遺伝子組み換え植物～**7月27日(金)**  
18:00▶19:45  
講師 鳥山 欽哉（東北大学大学院農学研究科教授）他 無料 申込不要

場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977

URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

ジェンダー論講座(1)「ジェンダーとは(1)～性の“常識”をうたがう」**7月28日(土)**  
10:00▶12:00  
講師 三條 秀夫（東北学院大学法学部准教授） 有料 要申込

場 所 エル・ソーラ仙台 大研修室 定員 50名

主催者 (公財) せんだい男女共同参画財団 問合せ TEL 022-268-8044

URL http://www.sendai-l.jp/

平成24年度日本薬学会東北支部 未来志向の薬剤師のための学術研究講演会**7月28日(土)**  
13:30▶16:30  
講師 田中 敏（みやぎ県南中核病院薬剤部）他 無料 申込不要

場 所 東北大学大学院薬学研究科 大講義室

主催者 日本薬学会東北支部 問合せ TEL 022-795-6851

URL http://shibu.pharm.or.jp/tohoku/

仙台藩志会公開講座 伊達学塾「政宗と母 義姫について」**7月28日(土)**  
14:00▶16:00  
講師 佐藤 憲一（前仙台市博物館館長） 有料 申込不要

場 所 仙台市戦災復興記念館 4階研修室 定員 64名

主催者 仙台藩志会 問合せ TEL 022-392-7729

東北大学機械系オープン講義**7月30日(月)～7月31日(火)**  
9:00▶11:00  
講師 東北大学工学部機械知能・航空工学科教授および企業研究者 無料 申込不要

場 所 東北大学青葉山キャンパス 工学部 機械・知能系 第一講義室

主催者 東北大学機械系 問合せ TEL 022-795-4043

URL http://www.mech.tohoku.ac.jp/oc2012/

8 AUG

「肺の日」市民公開講座「あなたの肺元気ですか？いきいきしていますか？」**8月4日(土)**  
12:30▶15:30  
講師 小川 浩正（東北大学・呼吸器内科）他 無料 申込不要

場 所 仙台国際センター 3F 中会議室「白樺」

主催者 社団法人日本呼吸器学会東北支部 問合せ TEL 022-275-1467

特別企画展「発掘 富沢!!—30年のあゆみ—」ギャラリートーク**8月4日(土)**  
14:00▶15:00  
講師 地底の森ミュージアム学芸員 有料 申込不要

場 所 地底の森ミュージアム企画展示室ほか

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/

高校生のための心理学講座シリーズ「心理学と社会—こころの不思議を解き明かす—」(東北地区)**8月12日(日)～8月13日(月)**  
10:30▶16:10  
講師 田島 裕之（尚絅学院大学准教授）他 無料 要申込

場 所 東北大学片平さくらホール 2階会議室 定員 100名

主催者 公益社団法人 日本心理学会 問合せ TEL 03-3814-3953

URL http://www.psych.or.jp/event/index.html#koukousei

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

読者の声

「学び」イベントに行ってきました

参加体験記

< 小企画展 >

■「絵本原画 小野かおる」展示解説

講師 宮城県美術館学芸員 宮坂 敦子 氏

2012年4月29日(日) 14:00～ 宮城県美術館 本館展示室2

宮城県美術館では「世界遺産 ヴェネツィア展」を開催しており、GWということも手伝ってか？なかなかの賑わいです。私は小企画展の「絵本原画 小野かおる」の展示解説が目的なので、皆さんとは違うドキドキ感で会場入りしました。

昨年8月の絵本原画名品展～記憶の底のたからもの～を鑑賞した際に自分で観てまわる場合と作品や作者についてのお話を伺いながらでは理解もまったく違い、作品の表情が変わって見えました。そんな経験から機会を無駄にしたくないなぁと足を運びました。そのかいあって、なんと学芸員の宮坂さんとマンツーマンの展示解説となりました。(贅沢な時間!!)

小野かおる氏（女性）はどちらかという子ども向けするような絵ではなく細部にわたって描き込むような形を得意としています。時間差のある内容を同一画面に表わすなど絵巻物などで扱う手法や、カメラを高い位置から覗いて映したような映像的な描き方など子どもだけでは無く大人も引込まれる作品です。構図の構図から天高く飛び上がる様などは縦型の画面に急変させ、ページをめくったときのオドロキに効果を発揮しています。解説を聴きながら絵本づくりの表現として作者自身が楽しんでいるのが良くわかりました。

原画に残るセロハンテープのあとやシミなどから長い年月は何えるが、線一本一本がイキイキとし、動きもダイナミックで時間の経過を感じさせない良い画でした。

「ごろびかどーん」で雲から転げ落ちたかみなりのこどもたちをむかえに来たごろびかかあさんが、雲にむかって子どもたちを蹴り上げるシーンは我ながらよく描けていると小野かおる氏から聴いているとのこと。なるほど迫力ある自慢の足が描かれていました。

宮坂さんによると宮城県美術館では10,000点の絵本原画を収蔵しているとのこと、春夏秋冬で鑑賞できるぐらいの機会をつくってほしいです……。

(太白区のオンロック)

読者の皆様に参加された「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。

参加体験記

募集中心!

「参加体験記」

◎投稿先「まなびのめ」編集部はがき・FAX・E-mailにて受付。Webからも応募できます。

◎採用させていただいた方に粗品を進呈いたします。

粗品  
進呈

第16号  
まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第16号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 人間が感知できる音の周波数はおよそ何ヘルツ以下？  
答え 2万ヘルツ (Hz) 以下

Q.2 八木山動物公園が提携するマダガスカル動物園の名前は？  
答え 国立チンパザザ動物園

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。応募いただければ抽選で図書カードが当たりますので、奮ってご参加ください!!

※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

図書カード 1,000円分  
図書カード 1,000円分  
図書カード 1,000円分

読者の声

読者の声

第16号にもたくさんのお便りが届いています。ほんの一部をご紹介します。

第16号 「生きものに学ぶ」

毎回たのしみに読んでますので今後ともよろしくお願いします。また「学び」イベントに参加した折には、体験記、書きます！！

(仙台市宮城野区・44歳 女性)

動物というのはその優れた能力に生かされていると感じます。人間にはそのような能力があるのだろうか…と考えた時、「学習する」「興味を持つ」というのが人間の能力なのかなと思います。また、それを後世に伝えていくことも人間の能力なのかな、とも。動物と対比させて改めて分かる人間の本质もありますね。

(仙台市青葉区・32歳 男性)

初めて読ませて頂きました。震災の際に、動物に触れた子ども達は、どれだけほっとして、癒されたことかと、遠藤氏のお話を伺って想像しました。動物園が様々な取り組みを行い、遊びに行くごとに園内が変わっているのは知っていても、専門的なことを知る機会はないので、ホームページなどで調べてみたいと「まなびのめ」を読んで、とても興味がわきました。

(仙台市若林区・33歳 女性)

「生きものに学ぶ」を読み、コウモリやイルカの高い能力を知り、興味をもちました。そして、「生きものに学ぶ」ことの意義や面白さが、伝わってきました。

(石巻市・35歳 男性)

初めてピックアップしました。16号になるんですね！次号楽しみにしています。

(宮城郡利府町・51歳 男性)

「学び」イベントの情報掲載を見て、仙台でもたくさんの方の向学心をそその講座があることを知りました。とても助かります。

(仙台市若林区・49歳 女性)

こウモリ  
蝙蝠の研究はとても興味深かったです。将来盲人の方の研究にも役立つそうですね。

(仙台市泉区・40歳 男性)

宮城の歴史や文化について、宮城に長年住んでいながら、まだまだ知らないことがたくさんあります。時間に余裕ができれば「学び」イベントにぜひ参加してみたいと思っています。

(仙台市宮城野区・35歳 女性)

生きものから学ぶというテーマでは色々専門家の方から伺うことしかわからない情報を教えて頂きとても勉強になりました。話題の切り口がずっと入っていく感じで興味を持って読ませていただきました。

(仙台市太白区・48歳 女性)

私共、人間と同じように、動物たちも生きるためには、いろいろな活動をしていることを、あらためて思い知らされ、とてもよい勉強になり感謝しております。そして、それぞれの動物の能力を活用し研究開発されている方々のさらなる発展を期待したいものです。

(仙台市宮城野区・85歳 男性)

日頃、あまり目にするこのない場所でのイベント日程がわかって、行ってみたいと思うように感じました。

(仙台市泉区・44歳 女性)

「生きものに学ぶ」事は非常に素晴らしいです。私もコウモリのように脳が聴覚のための領域が大きくなって探知能力がそなわれれば、楽しいかなと思いますが(笑)。車での交通事故もなくなると思います。

(仙台市泉区 男性)

今回は動物園の記事が載っていましたが、子どもと行ってみたいネと話していた処でしたのでラッキーでした(転勤族でようやく戻ってこれたので20年近く行ってなかったのです)。記事を読んだらますます行ってみたいくなりました。暖かくなってきたので早々に行ってきます。ありがとうございました。

(多賀城市・60歳 女性)

高慢な人間も自然界では“動物”にすぎない。他の動物からたくさん学ぶ必要がある。地球上の動植物の為にも共に前へ、共に生き、復興していかなければいけないなぁ～と感じました。

(仙台市青葉区・47歳 女性)

その他のお便りは Web 版でご覧いただけます。

これからの主な

「学び」イベント

9科 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

8 AUG

みやぎ県民大学「地球にやさしいエネルギーと環境」**8月20日(月)～8月24日(金)**  
省エネルギー技術～太陽電池・半導体・超伝導～(全5回) 18:00▶19:30  
講師 実施機関 東北大学金属材料研究所 無料 要申込

場 所 東北大学金属材料研究所 2号館講堂 定員 100名

主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-215-2181

URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第6期「大名行列と仙台藩」**8月23日(木)**  
13:30▶15:00  
講師 根岸 茂夫（國學院大學教授） 有料 要申込

場 所 大崎八幡宮 祭儀棟 定員 100名

主催者 国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学 実行委員会 問合せ TEL 022-234-3606

URL http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

みやぎ県民大学「環境の化学と生態学～環境理解入門～」(全5回)**8月24日(金)～**  
18:00▶19:30  
講師 実施機関 東北大学大学院環境科学研究科 無料 要申込

場 所 東北大学大学院環境科学研究科エコロポ 第4講義室 定員 30名

主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-795-4504

URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/

みやぎ県民大学「ながれ」(全5回)**8月24日(金)～**  
18:00▶20:00  
講師 実施機関 東北大学流体科学研究所 無料 要申込

場 所 東北大学流体科学研究所 定員 50名

主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-217-5302

URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/

仙台藩志会公開講座 伊達学塾「江戸時代の宗教—事例発表—」**8月25日(土)**  
14:00▶16:00  
講師 菊地 優子（大崎市教育委員会文化財課学芸員） 有料 申込不要

場 所 仙台市戦災復興記念館 4階第4研修室 定員 64名

主催者 仙台藩志会 問合せ TEL 022-392-7729

みやぎ県民大学「私たちの食料と健康と環境」(全5回)**8月29日(水)～**  
13:30▶15:30  
講師 実施機関 東北大学大学院農学研究科 無料 要申込

場 所 東北大学大学院農学研究科 第1講義室 定員 70名程度

主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-717-8609

URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/

東北大学サイエンスカフェ 第83回:素粒子から物質がどう作られた?～原子核の放つガンマ線から宇宙の物質の起源を探る～**8月31日(金)**  
18:00▶19:45  
講師 田村 裕和（東北大学大学院理学研究科教授） 無料 申込不要

場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977

URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

9 SEP

みやぎ県民大学「健康なお口で毎日を楽しむために～口は災いの元?～」(全5回)**9月1日(土)～**  
13:30▶15:00  
講師 実施機関 東北大学大学院歯学研究科 無料 要申込

場 所 東北大学大学院歯学研究科 定員 50名

主催者 宮城県教育委員会 問合せ TEL 022-717-8248

URL http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kenmin/

講座「戦時体制下の東北復興政策」**9月1日(土)**  
13:30▶15:00  
講師 一戸 富士雄（みやぎの近現代史を考える会会長） 有料 申込不要

場 所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/

第44回 小池光 短歌講座**9月1日(土)**  
13:30▶15:30  
講師 小池 光（仙台文学館館長） 有料 要申込

場 所 仙台文学館 定員 80名

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

URL http://www.sendai-lit.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略